

CORONA

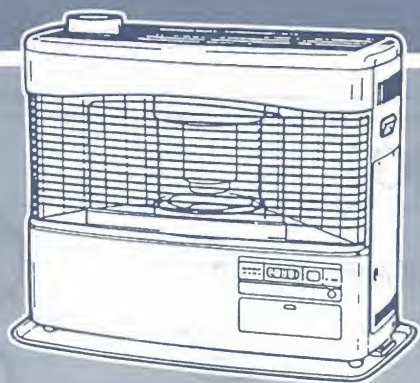
コロナ半密閉式石油ストーブ 取扱説明書

正しく使って上手に節約

ユー イチ

エイチアールエフ

UH-85HRF



このたびはコロナ石油ストーブ（UH形）をお買いあげくださりましてありがとうございます。

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をよく読んで、正しく使用してください。

まちがった取り扱いは思わぬ事故や故障の原因となります。

お読みになった後も取扱説明書は「保証書」・「工事説明書」と共に必ず保管してください。

もくじ

	ページ
1. 特に注意していただきたいこと （安全のために必ずお守りください）	1～3
2. 使用する場所	3
3. 各部の名称	4～5
4. 使用前の準備	6～7
5. 使用方法（使い方）	8～12
6. 安全装置	13
7. その他の装置	13
8. 日常の点検・手入れ	14～17
9. 定期点検	18
10. 部品交換のしかた	18
11. 保管（長期間使用しない場合）	18
12. 故障・異常の見分け方と処置方法	19～20
13. 仕様	21～22
14. アフターサービス	22
15. 据え付け・移設	23～26
16. 廃棄するときの注意	26



警告



GASOLINE

KEROSENE ONLY

ガソリン使用禁止
使用燃料：灯油



株式会社

コロナ

1. 特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は一般的な注意）が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合はガソリン禁止）が描かれています。



①記号は行為を指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

警告(WARNING)

●ガソリン厳禁

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。



●煙突外れ危険

煙突が外れたまま使用しないでください。
外れていると運転中に排ガスが室内にもれて、危険です。



●煙突閉そく危険

煙突がつまったり、ふさがれたままで使用しないでください。
閉そくしていると運転中に排ガスが室内にもれて、危険です。



●衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。



●スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、ストーブの上や前に放置しないでください。熱で缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。



●低温やけどに注意

長時間皮膚の同じ場所に触れないでください。
比較的低い温度でも低温やけどや脱水症状の原因となります。



注意(CAUTION)

●カーテン、可燃物近接禁止

カーテンや燃えやすいものを近づけないでください。火災が発生するおそれがあります。
可燃物との離隔距離については標準据え付け図例（23ページ）を参照してください。



●給油時消火

給油は、必ず消火してからおこなってください。火災のおそれがあります。



●油漏れ確認

油タンク・ゴム製送油管・接合部および機器などからの灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。灯油が漏れていると火災のおそれがあります。



●異常時使用禁止

万一異常を感じたときは使用しないでください。異常燃焼のおそれがあります。



1.特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

⚠ 注意(CAUTION)

●高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部、煙突、桮上部に手などふれないでください。
やけどのおそれがあります。



●やかんのせ禁止

やかんなどをのせないでください。
振動や接触によってやかんの熱湯がこぼれ、やけどのおそれがあります。



●分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理は、危険です。



●腰をかけたり、物をのせないで

機器の上ののったり、腰をかけたりしないでください。機器の故障や、
やけどのおそれがあります。機器の上に花瓶や水を入れたものなどを
置かないでください。水がかかると漏電や故障のおそれがあります。



●改造使用の禁止

改造して使用しないでください。
また、ストーブや煙突には床暖房用の熱交換器などを取り付けしないでください。
火災や排ガスが室内にもれる原因となり危険です。



●換気扇使用禁止

ストーブを使用している同室内で換気扇を使用しないでください。立
消えして爆発燃焼するおそれがあります。
また、換気口・給気口は常に確保し、物などでふさがないでください。



●ドラフトレギュレータの取り付け

煙突の引き(ドラフト)が強いと燃焼不良が発生します。次の煙突設
置の場合は必ず、ダブルドラフトレギュレータ(別売品DR-1)を取り
付けてください。

- ・ 集合煙突に接続する場合・標準寸法以上に立ち上がりが高い場合
- ・ 風が強くて炎が沈むような場合



●電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、物をのせたりしないでください。
また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。
火災や感電の原因になります。



●電源プラグは確実に差しこむ

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差しこんでください。
また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。火災の原因
になります。ぬれた手で抜き差しはしないでください。感電の原因になります。



●長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないとき又は保管するときは、必ず電源プラグをコンセント
から抜いてください。火災や予想しない事故の原因となります。



●電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこり及び金属物を除去してください。
ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。



●灯油の保管

灯油は、火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管して
ください。ガソリンなどといっしょに保管しないでください。
誤って使用すると異常燃焼や火災のおそれがあります。



●変質灯油禁止

変質灯油、不純灯油(汚れた灯油、水の混じっている灯油など)を使用しないでください。
異常燃焼や故障のおそれがあります。



1.特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

⚠ 注意(CAUTION)

●シスターンの水位に注意

循環水は少しずつ蒸発します。

1ヶ月に1回程度は、シスターンタンクの水位が規定水位にあることを確認し、不足している場合は補充液を補給してください。

上限水位以上は、入れないように注意してください。

床暖パネルを接続しない場合は、循環水は不要です。



●カーペットのはがれに注意

カーペットがずれたりめくれたまま使用しないでください。

床パネルに直接触れるとやけどのおそれがあります。



●循環液(循環水・不凍液)の保管に注意

幼児の手の届かない所に保管してください。

万一、飲んだ場合には吐かせて、医師の診断を受けてください。



●初めてお使いになるときの注意

初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼き付くまで煙と臭いが出ます。しばらくの間、窓をあけて部屋の換気をおこなってください。

また、小鳥や小動物などに影響する場合がありますので、この間は部屋に入れないでください。



お願い(NOTICE)

●機器を廃棄するときの注意

ストーブを廃棄処分するときは、定油面器の灯油を抜きとってください。(15ページ)

灯油を入ったまま廃棄するとリサイクルの際に思わぬ事故になるおそれがあります。

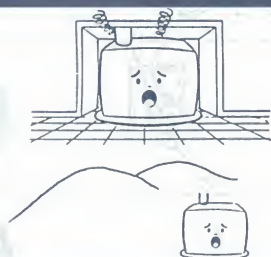
●灯油の廃棄

灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

2.使用する場所

ストーブを安全に使用するためには、場所の選定が大切です。

安全に使用するために



●マントルピースなどには据え付けしないでください。



●標高が1000mを超える高地では使用しないでください。
(空気の濃度が薄いため、燃焼に必要な空気が不足します。)

効果的に使用するために



●冷気の入ってくる方向、例えば窓側などに置くと、冷気がストーブで暖められて対流しますので、効果的です。

出入口など人の通るところは、ぶつかる危険ですので避けてください。

●部屋の保温を工夫し、部屋の温度の調節を心がけましょう。

ストーブの前面に障害物があると、部屋の温度にむらができるばかりでなく、ふく射熱によってストーブ本体の温度が上昇して危険です。

使用場所には十分注意して効果的に使用してください。

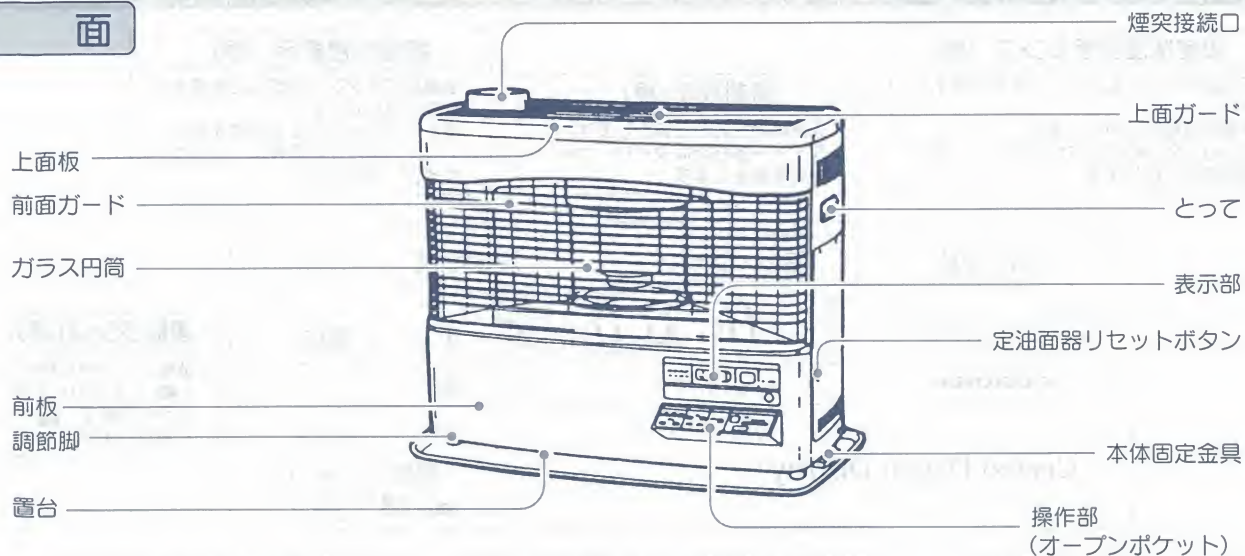
●ストーブの前は、反射板からのふく射熱がでますので、床暖パネルとの距離を考慮してください。

●温水配管の長さが短くなるような位置にストーブを設置してください。

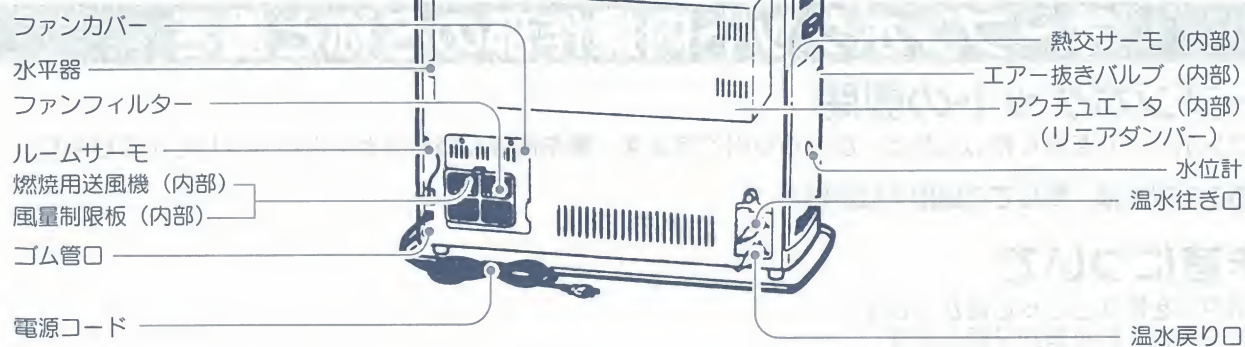
3.各部の名称

外 観 図

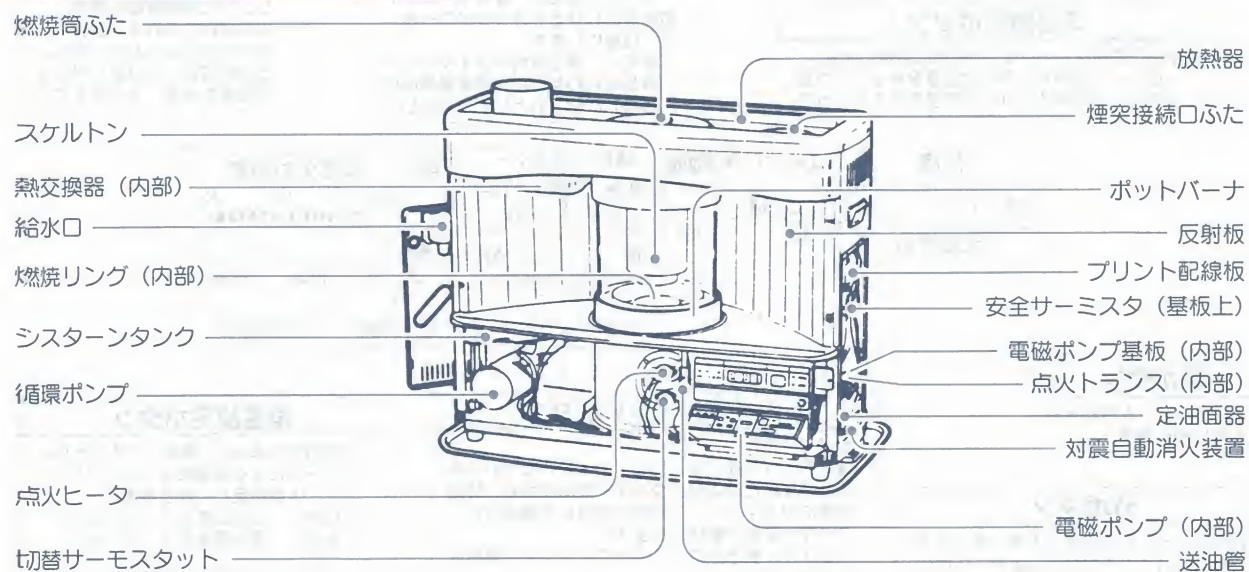
正 面



背 面

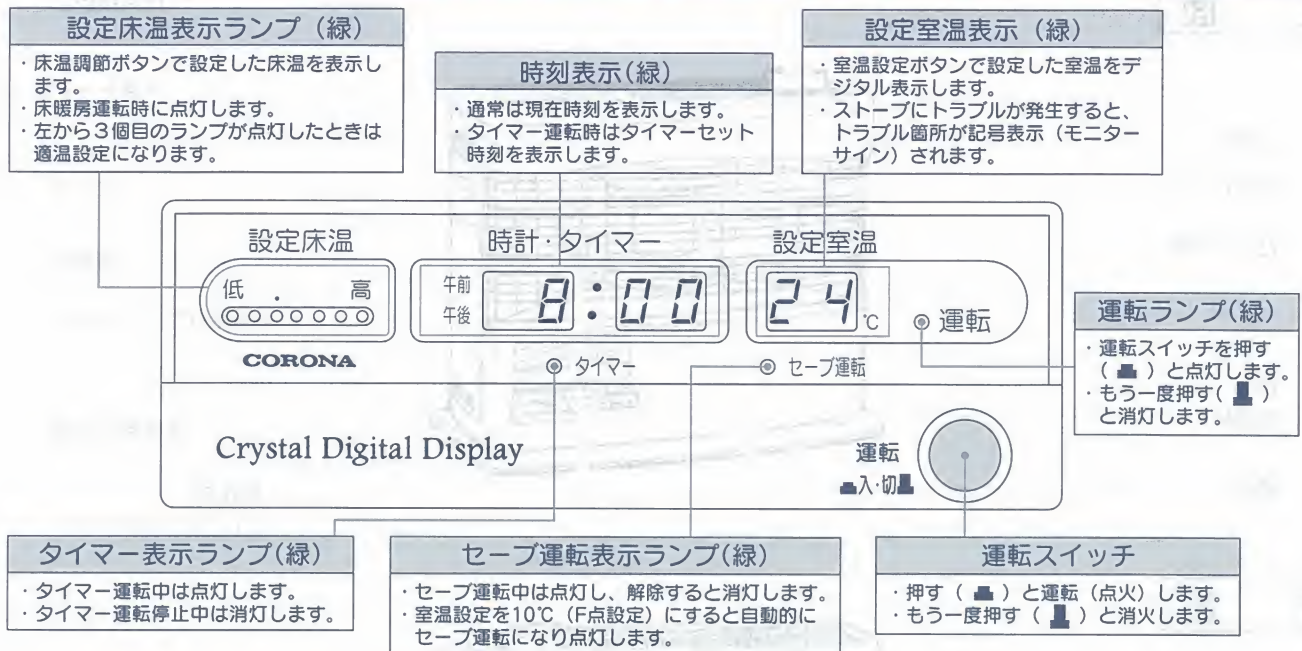


構 造 図



3.各部の名称

表示部の名称と働き



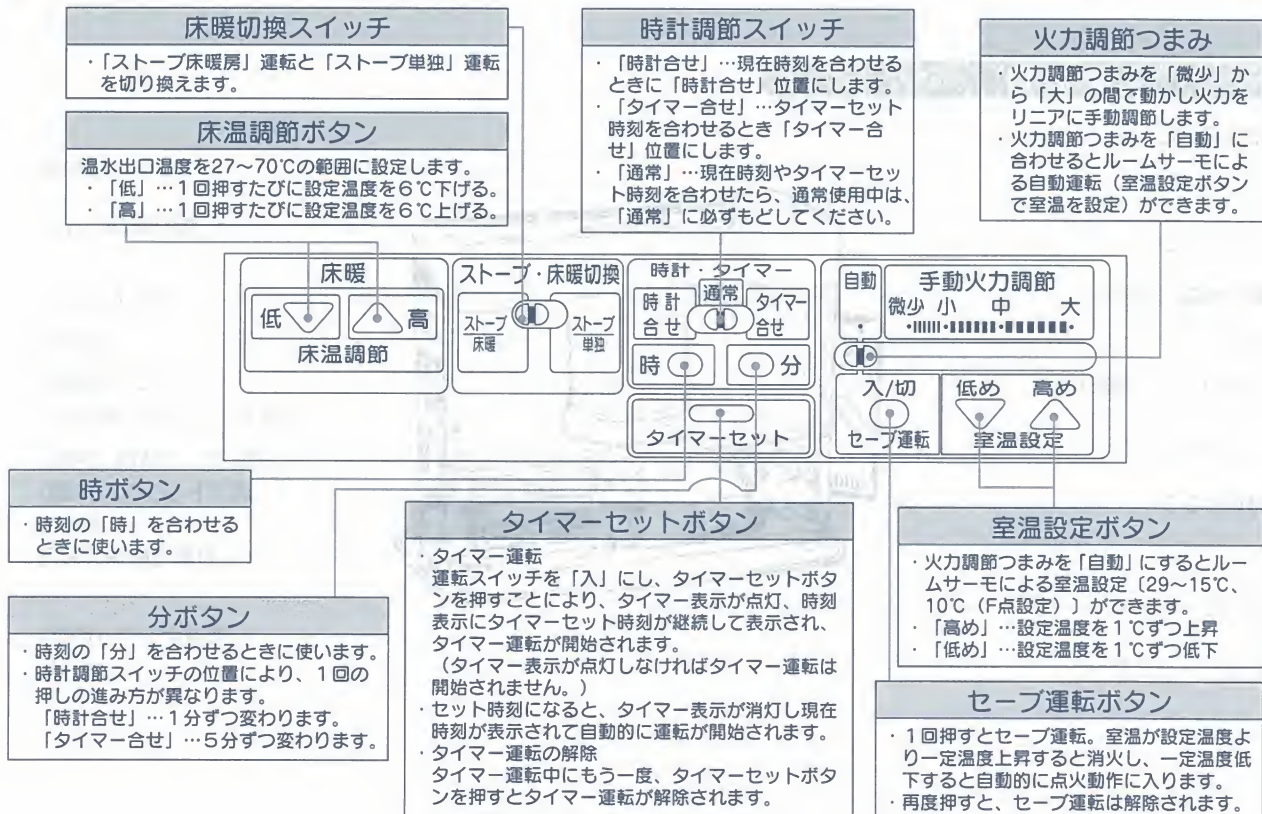
オープンポケット内操作部の名称と働き

■オープンポケットの開閉

- オープンポケットを軽く押しこむと、ゆっくり出てきます。操作後軽く押しもどすとロックして止まります。
- 操作するとき以外は、閉じてご使用ください。

■操作音について

- 操作ボタンを押すとピッと音がします。
- 誤操作をするとピッ音が2回します。



4.使用前の準備

燃 料

燃料は必ず灯油（JIS 1 号灯油）を使用してください。

- **⚠警告** ガソリンなど揮発性の高い油は、火災の原因になりますので絶対に使用しないでください。
- **⚠注意** 変質灯油、汚れた灯油、水の混じっている灯油などは、絶対に使用しないでください。
- **⚠注意** 灯油は、必ず火気・雨水・ごみ・高温及び、直射日光を避けた場所に保管してください。



給 油

■給油の際の手順と注意



- 送油バルブを閉じて給油口ふたをはずし市販の給油器具で灯油を給油してください。油量計の針が「満」をさしたら給油をやめてください。
- 給油口ふたを必ずもとどおりに締めてください。
- 給油の際に、水、ごみなどを入れないよう特に注意してください。

■給油口ふたは、確実に締めてください。

■こぼれた灯油はよくふきとってください。

■燃料切れの注意と空気抜きの方法

油タンクを空にしないように注意してください。

油タンクを一旦空にしますと、送油経路内に空気がたまり、正常に送油ができなくなることがあります。このような場合には次の順序で空気抜きをしてください。



1. 油タンクに給油します。
2. ストブのゴム管口から、ゴム製送油管をはずします。
3. ゴム製送油管から油が連続して流れ出ることを確かめてからゴム製送油管をもとどおりにストブに取り付けます。（油がこぼれないように容器を用意してください。）

運転開始前の準備と確認

■安全装置のセット、取扱上の注意



定油面器のセット

初めて使用するときや、シーズン初めには、ストブ右側面の丸穴の中に指を入れ、定油面器リセットボタン（赤色）を軽く押し下げてください。

- リセットボタンは据え付け時や、シーズン初めに操作します。定油面器に強い衝撃を与えたり異常があったとき以外は、特に操作する必要はありません。万一、点火操作後4～5分しても着火しなかったり、着火後2～3分で消火してしまう場合は、リセットボタンを押してください。（安全弁がはずれ、灯油がスムーズに流れます。）

ご注意 リセットボタンを押す際は、スペーサをはずして押さないでください。また、5秒以上押し続けたり、何回も押し下げたりなど乱暴に取り扱わないでください。定油面器より油があふれ出たり、赤火などの異常燃焼の原因となる場合があります。

■送油経路の油もれの確認

- 油タンクや送油管の接合部などから油もれがないかどうか確認してください。

4. 使用前の準備

運転開始前の準備と確認

■電気配線の確認

- **⚠注意** 電源プラグをコンセントに刃の根元まで確実に差しこんでください。
- 電源コードが煙突などの高温部にふれるおそれのないことを確認してください。

ご注意 電源プラグ・コードの発熱・発火を防ぐために…

- 電源は必ず適正配線された単相100Vコンセントを使用してください。
- 電源コードは、途中で接続したり延長コードの使用・他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。

■接地(アース)の確認

- 工事説明書にしたがい、接地(アース)がとられているかどうか確認してください。

■点火の要領と注意

床暖切換スイッチのセット

ストーブ単独で運転する場合は「ストーブ単独」に、ストーブ床暖房運転をおこなう場合は「ストーブ床暖房」に、床暖切換スイッチをセットしてください。床暖切換スイッチのセットは運転開始前におこなってください。

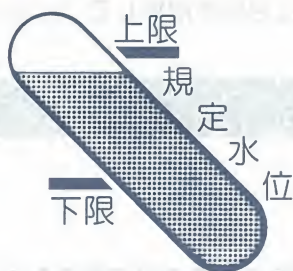
- ストーブ床暖房で運転する場合



- ストーブ単独で運転する場合



循環水の水位確認



- **⚠注意** ストーブ左側面の水位計で、シスターンタンクの規定水位(上限水位と下限水位の間)まで循環水(コロナ床暖房用循環液)が入っていることを確認してください。循環水が入っている場合は黄色になります。循環水は上限以上入れないように注意してください。水位が下限以下の場合は、床暖房専用補充液を入れてください。

温水配管の水もれの確認

- ストーブ内部や温水配管接合部から水もれがないか確認してください。
- 床暖パネルの温水配管の途中にバルブを取り付けた場合は、必ずバルブが開いていることを確認してください。

■運転中に床暖切換スイッチを操作した場合の注意

むやみに、ストーブ単独 ↔ ストーブ床暖房に切りかえないでください。循環水のつまりの原因になります。

- **ストーブ単独 → ストーブ床暖房**…自動的に一旦消火して、約15~20分後に再点火し、ストーブ床暖房運転を開始します。そのとき、「ジュー」という循環水の蒸発音が発生することがありますが異常ではありません。なお、熱交サーモの状態によっては、再点火後もストーブ単独のままの場合があります。この場合は運転スイッチを一旦「切」にし、冷却したあと(表示ランプ類消灯後)4~5分経過したあとに、「入」にしてください。
- **ストーブ床暖房 → ストーブ単独**…運転はそのまま続きます。しばらくして「ジュー」という循環水の蒸発音がしますが異常ではありません。

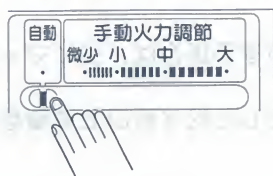
5.使用方法(使い方)

運転開始(点火)

- オープンポケット内の火力調節つまみで「自動運転」と「手動運転」が設定できます。
ご希望の運転方法でご使用ください。

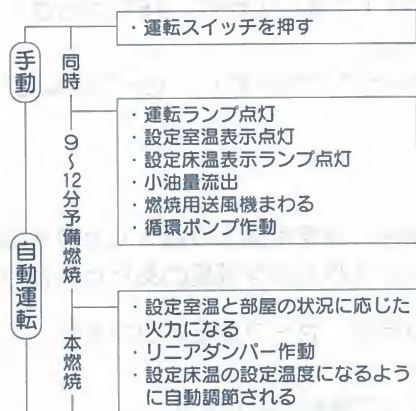
点火順序

■ストーブ火力調節「自動運転」の場合

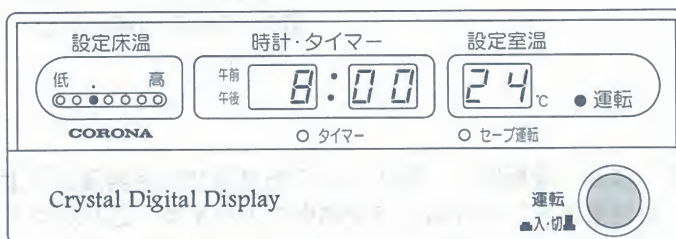


- 火力調節つまみを「自動」に合わせてください。設定室温と部屋の状況に応じた火力で燃焼します。
- 時計合せは10ページ「現在時刻の調節方法」を参照して行ってください。

ストーブ床暖房運転

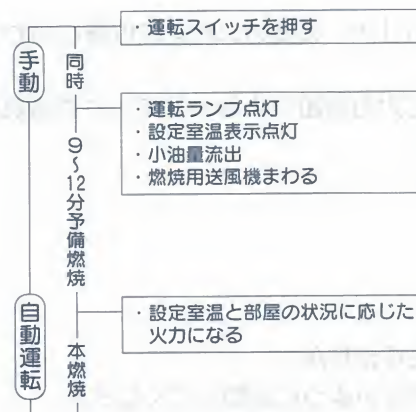
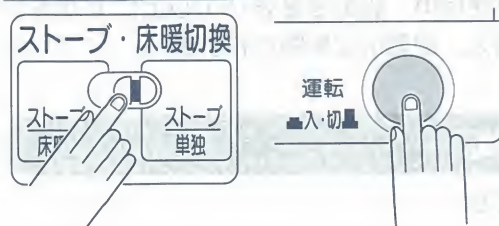


1. 時刻表示が現在時刻を表示していることを確認してください。
2. オープンポケット内の床暖切換スイッチを「ストーブ床暖房」に合わせてください。
3. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
自動的に次のように運転（予備燃焼・本燃焼）します。（ストーブ火力調節「手動」（微小〜大）の場合は設定室温の表示はありません。）

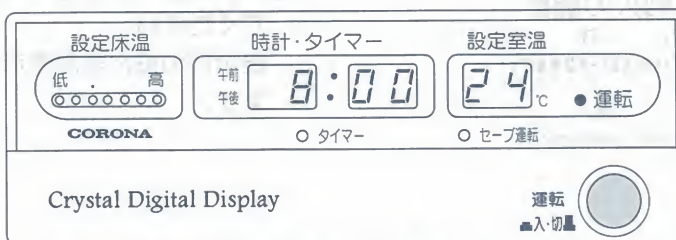


※予備燃焼後、しばらくの間、火力は大きくなります。

ストーブ単独運転



1. 時刻表示が現在時刻を表示していることを確認してください。
2. オープンポケット内の床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に合わせてください。
3. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
自動的に、次のように運転（予備燃焼・本燃焼）します。（ストーブ火力調節「手動」（微小〜大）の場合は設定室温の表示はありません。）

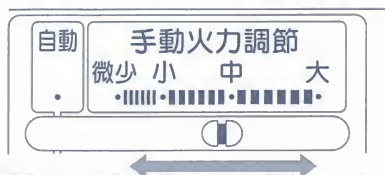


※予備燃焼後、しばらくの間、火力は大きくなります。

5.使用方法(使い方)

運転開始(点火)

■ストーブ火力調節「手動運転」の場合



- オープンポケット内の火力調節つまみを「微少」から「大」の間のご希望の位置に合わせてください。

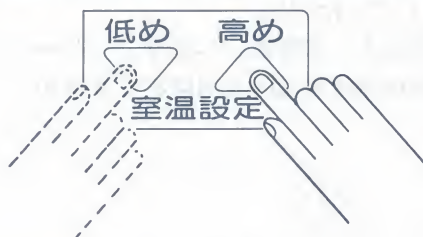
表示部の設定室温表示が消え、予備燃焼が終了すると火力調節つまみの設定火力で燃焼します。ただし、予備燃焼後、約4分間は最大火力になりません。

- 運転スイッチを「入」にした時、運転ランプが点灯せずにタイマー表示ランプが点灯する場合は、タイマー運転となりますので、タイマーセットボタンを押してタイマー運転を解除してください。
- 燃焼中に運転スイッチを押して「消火」にしたり、タイマーセットボタンを押すなどして約3秒以上通電を止めると自動消火し、燃焼室が冷却してからでないと再点火できません。

室温の調節(自動運転)

オープンポケット内の火力調節つまみを「自動」に合わせると、ルームサーモによる自動運転となり、設定室温に自動調節されます。

表示部に設定室温(24℃)が表示されますので次のように調節してください。



- 室温設定ボタン「高め」を押すたびに1℃上昇します。(上限29℃)
- 「低め」を押すたびに15℃までは1℃ずつ下がり、15℃からはいきなり10℃(F点設定)となります。
- 10℃設定の場合はセーブ運転表示ランプが点灯し、セーブ運転となります。

セーブ運転

ストーブ火力調節「自動」運転時に、微少火力でも室温が設定室温より上昇する場合、設定室温より約3℃上昇すると自動的に消火し、設定室温まで下がると点火動作に入ります。これをくり返すことによりむだな部屋のあたため過ぎを防ぎます。

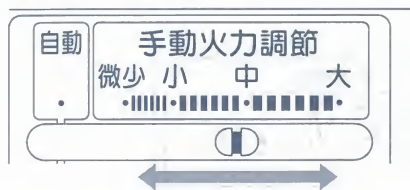


- 室温設定ボタンにより希望の室温設定後、セーブ運転ボタンを押してください。セーブ運転表示ランプが点灯し、セーブ運転となります。
- セーブ運転ボタンを再度押すことによりセーブ運転表示ランプが消え、セーブ運転解除となります。
(室温設定10℃(F点設定)で使用中、設定室温を15℃以上に上げるとセーブ運転表示ランプが消え、自動的に解除されます。)

火力調節(手動調節—手動運転)

室温設定による自動運転の他に、火力調節つまみによる手動火力調節が可能です。

次のようにしてください



- 火力調節つまみを「微少」から「大」の間のご希望の位置に合わせてください。
表示部の設定室温表示が消えて火力調節つまみの設定火力で燃焼します。

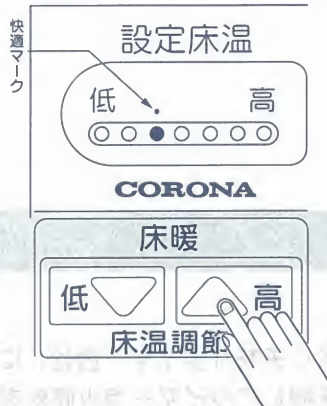
■炎の状態

ストーブの据え付けや煙突の設置条件で、炎は多少変化します。

- 炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎(赤火)が混じっても異常ではありません。
- 炎が片燃えなどをする場合は、火力調節つまみをスライドさせて、炎の片燃えのないように調節してください。

床暖パネルの温度調節

ストーブ床暖房運転の場合、循環水が設定温度になるように、自動的に温度調節されます。又、設定床温表示ランプに快適マークがついています。快適マークは、床暖パネルのカーペット表面をほぼ33～34℃（床暖パネル3畳の場合）に保つ循環水温度を示します。ご参考にされると便利です。



- 特に温度設定しない場合は、自動的に快適マークの位置（設定床温表示ランプの3つ目）に設定されランプ表示します。
- 床温調節ボタンを押すと次のように床温調節でき設定床温表示ランプも移動点灯します。
 - 「低」……1回押すたびに設定温度を6℃下げ、ランプ表示が左側へ移動。
 - 「高」……1回押すたびに設定温度を6℃上げ、ランプ表示が右側へ移動。

- 床暖の温度調節は、足元（床暖パネルの表面温度）の温度調節のため、部屋全体の温度調節ではありません。
- カーペットの表面が熱くなりすぎないように使用温度には、十分注意してください。

運転停止(消火)

消火順序

ストーブ床暖房運転

ストーブ単独運転



運転スイッチを押して「切」にしてください。

運転ランプが消灯します。

燃焼室が冷却すると自動的に燃焼用送風機、循環ポンプ（ストーブ床暖房運転のみ）が停止し、時刻表示以外のすべてのランプが消灯します。

- ⚠注意** 2日以上家をあけるなど長時間使用しない場合は、運転が完全に停止してから電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 外出のときは、必ず運転を停止（消火）してください。
- 運転停止後、燃焼室が冷却（ランプ類が消灯）するまでは電源プラグを抜かないでください。もし抜きますと、ガラス円筒がくもったり、ストーブの表面温度が上昇します。

消火後、再点火するときの注意

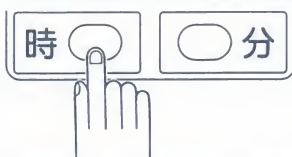
- 燃焼中に誤って電源プラグを抜いたり、運転スイッチを「切」にすると、再点火安全装置の動きで、ストーブが冷却されるまで再点火できません。
ただし瞬間的な消火操作（約3秒以内）の場合は、そのまま燃焼が継続されます。
- 停電時には、必ず運転スイッチを「切」にしてください。

現在時刻の調節方法

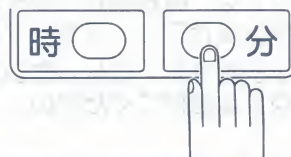
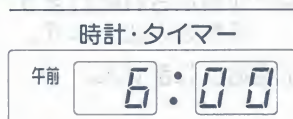


- オープンポケット内の時計調節スイッチを「時計合せ」にします。
はじめて使用するときや、電源プラグを長時間抜いたときは、時刻表示は0:00を表示します。
- 時計調節の「時」・「分」ボタンを押して現在時刻を合わせます。

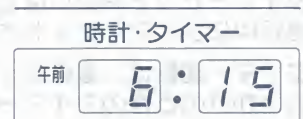
例：午前6時15分に合わせる場合



①「時」ボタンを押して“午前6：00”にします。

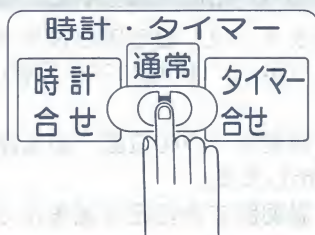


②「分」ボタンを押して“午前6：15”にします。



5.使用方法(使い方)

現在時刻の調節方法



3. 必ず時計調節スイッチを「通常」位置にもどしてください。

●必ず時計調節スイッチが「通常」になっていることを確認してください。

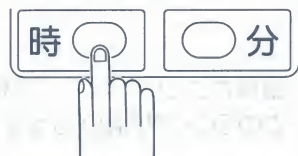
タイマーの使用方法

■運転時刻の合わせ方

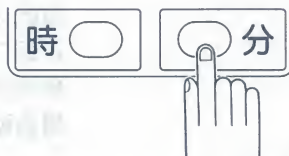
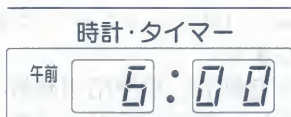


1. オープンポケット内の時計調節スイッチを「タイマー合せ」にします。
2. 時計調節の「時」・「分」ボタンを押してタイマー点火時刻を合わせます。「分」は5分ごとに動きます。

例：午前6時30分に合わせる場合



①「時」ボタンを押して“午前6：00”にします。



②「分」ボタンを押して“午前6：30”にします。

これでタイマーセット時刻が記憶されました。



3. 必ず時計調節スイッチを「通常」位置にもどしてください。これで時刻表示には現在時刻が表示されます。

■タイマー運転方法

ストーブ床暖房運転 ストーブ単独運転



1. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
(燃烧中の場合はそのままです。)
2. 運転するときのご希望の室温又は、火力に合わせてください。
3. 床温調節ボタンで、床暖温度をご希望の温度に合わせてください。
(ストーブ床暖房運転のみ)
4. タイマーセットボタンを押してください。
時刻表示にタイマーセット時刻が表示され、タイマー表示ランプが点灯し、タイマー運転に入ります。
(この時、燃烧用送風機が10分間運転しますが異常ではありません。)

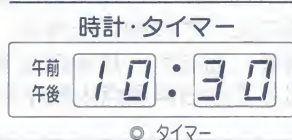
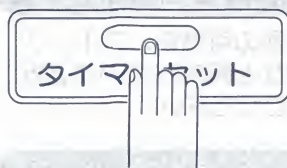
●タイマーセット時刻になるまでは、時刻表示にタイマーセット時刻が表示され続けます。

●運転中にタイマーセットボタンを押すと、ストーブは自動消火し、運転を停止します。

●タイマー運転は、運転スイッチが「入」になっていないと運転が開始されません。

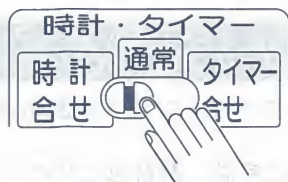
●おでかけのときのタイマー点火は避けてください。

■タイマー運転の解除

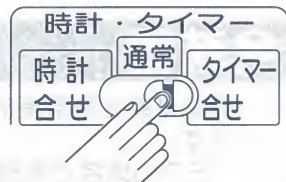


- タイマーセットボタンを押します。
タイマー表示ランプが消灯し、時刻表示に現在時刻が表示され、タイマー運転が解除されます。
- このままであれば自動的に運転を開始します。運転を停止する場合は、運転スイッチも「切」にしてください。

■タイマーセット時刻・現在時刻の確認



現在時刻の確認



タイマーセット時刻の確認

- ①時計調節スイッチを「時計合せ」又は「タイマー合せ」に合わせます。
- ②現在時刻又は、タイマーセット時刻が時刻表示に表示されます。
- ③確認後、時計調節スイッチは、必ず「通常」位置にもどしてください。

ポットバーナに油をためてしまったとき

- ポット内に油がたまった場合、このまま点火操作をすると異常燃焼したり、点火不良となります。ボロ布などでポット内の油を吸いとってください。(15ページ「ポットバーナの掃除」を参照。)
- ポットバーナに油がたまったことに気付かないで点火したときは、ポットにたまった油が燃えつきるまで炎が大きくなって燃焼します。
- このようなときは、すぐ運転スイッチを「切」にし、たまった油が燃えつきるまでそのままお待ちください。このとき電源コードのプラグは抜かないでください。

- この場合、ガラス円筒がすすけることがあります。ストーブが冷却してから燃焼筒ふた、スケルトンをはずしてガラス円筒を掃除してください。(16ページ「ガラス円筒内部の掃除」参照。)

モニターサインについて

ストーブにトラブルが発生すると、トラブル箇所が設定室温表示に記号表示(モニターサイン)されます。この場合記号表示の内容を、ストーブ左側面に印刷されたモニターサイン一覧表、又は19～20ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」をご覧くださいの上、必要な処置をしてください。

使用上の注意

床暖パネルの温度調節

- 床暖の温度調節は、足元(床暖パネルの表面温度)の温度調節のため、部屋全体の温度調節ではありません。カーペットの表面が熱くなりすぎないように使用温度には十分注意してください。

循環水の凍結予防(循環液の注入)

寒冷地だけでなく、暖かい地域でも凍結予防及び腐食予防のために、必ず循環液を入れてください。

- 循環液は必ずコロナ床暖房用循環液(別売品)をご使用ください。他の不凍液を使用したり、混合したりすると製品の寿命が短くなります。
- 循環液は3年を目安に入れかえてください。(開封した循環液も含む)

本書の「特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)」の他に、次の項目についても注意してください。

- 上面ガードは、地震などにより可燃物が落下したときなどに火災を防止するためのものです。やむをえず取りはずした場合は、必ずもとの状態に取り付けておいてください。
- クリーニング店、美容院などの化学薬品を使うところや温室、飼育室など、動植物の育成栽培に使用しないでください。
- 雷が発生したとき、雷(誘導雷)により一時的な過電圧がかかっても、過電圧防止装置が機器を保護するしくみになっていますが、大きな雷(直撃雷など)の場合は、電子部品を損傷するおそれがありますので、電源プラグをコンセントから抜いてください。

6.安全装置

対震自動消火装置

地震（震度約5以上）や強い振動、衝撃を受けた場合、自動的に消火します。
モニターサインE3表示

地震によって作動した場合、周囲の可燃物、ストーブの損傷、油もれ、煙突のはずれなど異常がないことを確認してから再度点火操作をしてください。

点火安全装置

異常燃焼を防止するため、点火ヒータおよび燃焼用送風機に通電される前に、灯油が流出しない構造になっています。

停電安全装置

停電や電源プラグが抜けたときは自動的に消火します。
（1秒以下の停電の場合は燃焼継続）

通電後設定室温表示にモニターサインE7が表示されます。

・E7の場合で再運転するときは、時計などのセットをしてから、運転スイッチを再度「入」にしてください。

7.その他の装置

再点火安全装置

消火直後、ストーブが冷却しないうちに再点火操作をしても、燃焼室の温度が一旦冷却してからでないと燃焼しないようになっています。

不着火検出装置

着火不良のため、点火操作後約20分経過しても切替サーモスタットが切り替わらない場合は、運転を停止します。
モニターサインE2表示

不着火の原因を取り除き（ポットバーナ内に油がたまった場合は取り除き）点火操作をしてください。

循環水過昇防止装置

循環水が極端に減少するなどのために、熱交換器出口温度が95℃以上に上昇すると、自動的にストーブ単独運転に切り替えます。
モニターサインF1表示

- ・ストーブをいったん消火して循環水過昇原因を取り除き、点火操作をしてください。
- ・なおも異常がある場合はお買い求めの販売店にご相談ください。

過電流防止装置

内部配線のショートにより過電流が流れたとき、電流ヒューズが切れ、すべての運転を停止します。

- ・お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

燃焼用送風機異常検出装置

燃焼用送風機の回転数が異常に低下するとストーブの運転を停止します。
モニターサインEA表示

- ・異常低下の原因を取り除いてから点火操作をしてください。
- ・なおも異常がある場合はお買い求めの販売店にご相談ください。

安全サーミスタ

ストーブの上面及び側面が囲われているときや、ストーブの前面に障害物などがあって、プリント配線板部温度が73℃以上に上昇すると、自動的に消火します。
モニターサインEO表示

- ・過昇原因を取り除いてから点火操作をしてください。
- ・なおも異常がある場合はお買い求めの販売店にご相談ください。

8. 日常の点検・手入れ

点検、手入れのときの注意

点検・手入れは消火後、ポットバーナが冷却してから、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

⚠注意 電気部品の分解や市販品との交換は絶対にしないでください。
電磁ポンプ基板のボリュームは絶対にさわらないでください。

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■周囲の可燃物（使用ごと）

- **⚠注意** ストープの周囲は、常に整理・掃除し、燃えやすいものを置かないでください。

■ほこり・汚れ（使用ごと）

- ほこりや汚れをそのままにしておきますと、油がしみたりして危険です。
ストープはいつも清潔にご使用ください。

■油もれ・油のたまり・油のにじみ（使用ごと）

- 置台・油タンクに油もれ・油のたまりや油のにじみがないか、ときどき点検してください。
又、給油の際にこぼれた灯油は、よくふきとってください。

- 油もれのある場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

■ゴム製送油管の点検・交換の目安（シーズンの初め）

- **ご注意** ゴム製送油管は、屋外で使用しないでください。
屋外での使用は禁止されています。
- 屋内でゴム製送油管を使用しているときは、膨潤、収縮、変質、変形、ひび割れがないか確認し、欠点のあるときは交換してください。
交換の目安は、3年に一度です。

■油タンク（シーズンの初め、適時）

- 油タンク内は水やごみがたまりやすいものです。給油のとき、点検してください。
油タンク内の水抜き及び掃除は、油タンク付属の取扱説明書に従って行ってください。

■煙突の接続部のゆるみ及びトップの周囲（シーズンの初め、適時）

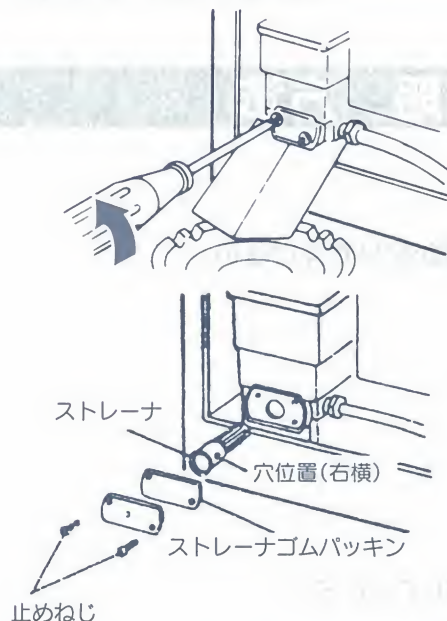
- 煙突の接続部、煙突トップのはずれがないかを点検してください。煙突が腐食したり、穴があいたりしていると危険です。新しい物と交換してください。
- 煙突の近くには燃えやすいものを置かないでください。
- 煙突内は結露で生じた水滴が凍ってつまと危険です。点火時に、煙突のつなぎ目やストープより異常な煙が出たら消火して、煙突内部を点検してください。

8. 日常の点検・手入れ

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■定油面器のストレーナの掃除（適時）

- 定油面器には、ごみを除くためのストレーナがついています。ごみがたまると、灯油の流れを妨げて、十分な火力が出なくなります。次のようにしてください。



1. 油タンクの送油バルブを閉じてください。
2. ストレーナの掃除口に荷札などの厚紙を差し込んで、油ガイドを作り、その下に容器を置いてストレーナの止めねじをゆるめてはずしてください。
定油面器の汚れた灯油やごみが全部流れ出ます。
3. ストレーナを取り出して、きれいな灯油の中ですすぎ洗いをしてください。（水で洗わないでください。）

組立てるときは

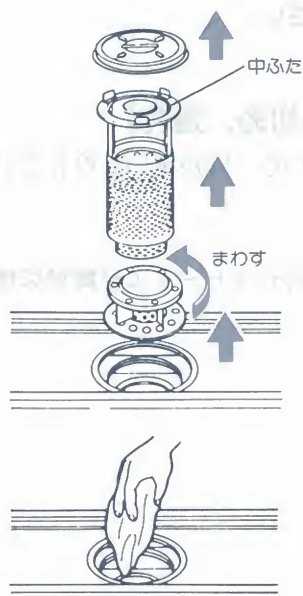
- ストレーナゴムパッキンを忘れぬようにしてください。
- ストレーナを逆に入れないでください。また、穴位置が必ず、右横になるように取り付けてください。
- ストレーナの止めねじを、固く締め付けてください。
- 油もれがないか確認してください。

■点火ヒータの点検（シーズン初め）

- 点火ヒータや点火しんにすすが付着しますと、赤熱が低下したり、油の吸上げが悪くなったりして点火しにくくなり、着火不良の原因になります。
点火ヒータの脱着は入念に行う必要がありますので、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。

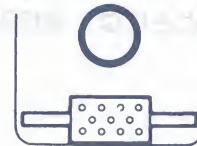
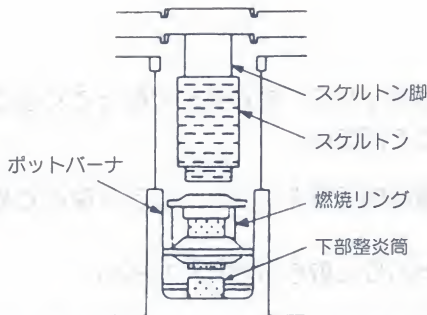
■ポットバーナの掃除（適時）

- ご注意** 掃除は、ストーブを消火させ充分冷却してから、行ってください。
熱い状態で行うとやけどのおそれがあります。
- ポットバーナにすすがついて炎の形が不揃いになったときや、ポットバーナの底にすすやカスがたまりすぎて着火がおそくなったときは、次のようにしてすすを取り除いてください。



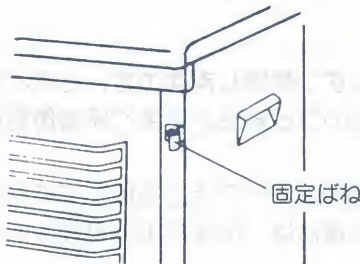
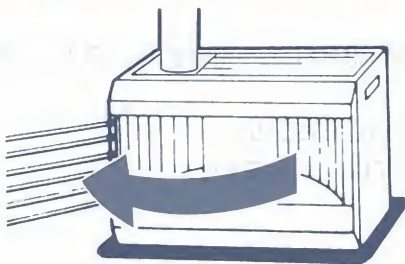
1. 上面ガードをはずしてください。
2. 燃焼筒ふたをはずしてください。
3. スケルトンは中ふたに取り付いています。スケルトンをガラス円筒にあてないようにして、取りはずしてください。
4. 燃焼リングをまわして取り出してください。
5. ポットバーナ底部の下部整炎筒を取り出してください。
6. 点火ヒータ、点火しんをいためないように、ポットバーナ内部のすすをドライバーなどでかき落としてから、布などでふきとってください。

7. 組立ての際、燃烧リング及び、下部整炎筒は、左図のように正しく確実に取り付けてください。



- ポットバーナ、燃烧リングを損傷したまま使用しますと、燃烧が悪くなります。ドライバーなどでつついてみて穴があいたり、欠けた場合は新しいものと交換してください。
ポットバーナの交換は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。

■反射板・ガラス円筒の掃除（適時）



前面ガードのセット

- 【ご注意】** 掃除は、ストーブを消火させ充分冷却してから、行ってください。
熱い状態で行うとやけどのおそれがあります。
- 反射板及びガラス円筒にほこりがたまりますと、反射効率が悪くなるばかりでなく危険ですので、次の要領で適時掃除をしてほこりを取り除いてください。

1. 前面ガードを右側の固定ばね（2個）からはずし左側にまわしてください。
2. ガラス円筒を割らないように注意して、掃除機などで内部のほこりをきれいに掃除してください。
3. やわらかい布などで、反射板及びガラス円筒をきれいに拭いてください。
4. 掃除が終わりましたら、もとどおりにセットしてください。

- 前面ガードは、きちんと取り付けてください。

■ガラス円筒内部の掃除（適時）

- 【ご注意】** 掃除は、ストーブを消火させ充分冷却してから、行ってください。
熱い状態で行うとやけどのおそれがあります。
- 長期間の使用や、油だまりによる大燃烧の後にはガラス円筒がすすけることがあります。
ガラス円筒がすすけて炎が見えにくくなったときは、15ページ「ポットバーナの掃除」の項にしたがい、スケルトンをはずしてガラス円筒を掃除してください。

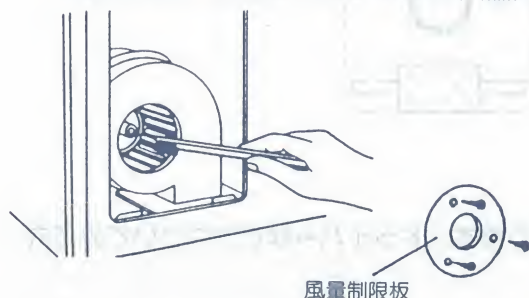
- ガラス円筒には、水をかけたり、衝撃を与えたりしないよう注意してください。
- 運転中にガラスが徐々にすすけた場合は、しばらくの間（約30分間）火力を大きくすることにより、すすを除去することができます。

8. 日常の点検・手入れ

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■ 燃焼用送風機の掃除（年1回以上）

- 燃焼用送風機ファンにごみやほこりがたまると、送風力が弱くなり燃焼が悪くなったり、音が大きくなってくることがあります。このようなときには、燃焼用送風機ファンのほこりを取り除いてください。



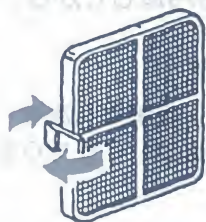
ストーブ後側のファンカバーと風量制限板をはずし、ブラシなどで静かにほこりを取り除いてください。

- 掃除が終わりましたら、もとどおりに取り付けてください。

- 燃焼用送風機ファンに力を加えますと、曲りや傾きを生じて、回転のときに音が出ますので力を加えぬようにしてください。

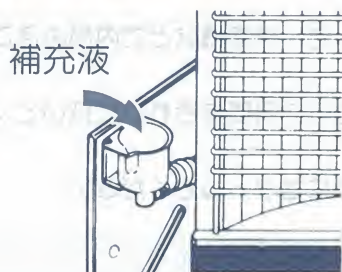
■ 燃焼用送風機ファンフィルターの掃除（適時）

- ファンフィルターにごみやほこりで目づまりすると、燃焼不良の原因になります。次の要領でストーブ裏面のファンフィルターの掃除を行ってください。



1. 左図の矢印のようにファンフィルターに力を加えながら引き出し、ストーブ裏面から取りはずしてください。
2. ブラシなどでフィルターのほこりを取り除いてください。
3. 掃除が終わりましたら、もとどおりに取り付けてください。

■ 循環水の補給（適時）



シスターンタンク内の循環水は、少しずつ蒸発しますので、ときどき確認して、循環水が不足している場合は、そのつど規定水位まで床暖房専用補充液を補給してください。

- 給水口扉を開き、床暖房専用補充液を上限水位まで追加してください。
〔配管などからの水もれで補給する場合は、床暖房用循環液を入れてください。〕

- コロナ純正床暖房用循環液は、凍結予防の他に床暖房に使用される機器（ストーブ・床暖パネル・配管部品など）の防錆効果を目的に作られた循環液で、すでに純水で適正な濃度に調合してありますので、試運転時にはこのままストーブに入れてください。
- 他社銘柄の防錆剤、不凍液（特に車両用など）を使用したり、混合したりしますと防錆効果が発揮されず機器の耐久性がそこなわれたり、粘度があわずポンプの性能が十分発揮されずに、沸騰してしまうことがあります。
- 循環液は、常温では引火しませんが、加熱されたストーブの上などにかかるとう着火することがありますので、取り扱いには十分注意してください。
- 循環液は3年を目安に入れ替えてください。（開封した循環液も含む）
- 循環液の凍結温度は、 -20°C に調合されています。

■ 温水配管の水もれ確認（適時）

- ストーブ内部や温水配管接続部分から水もれがないことを確認してください。

■ 地震などの災害が発生したときの点検について

- 地震などの災害が発生し、ストーブに振動や衝撃が加わったときは、運転前に必ず次の点検を行ってください。
 - ・ 煙突まわりのはずれ、もれの確認
 - ・ 灯油配管からのもれの確認
- 点検で異常が見つかった場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

9. 定期点検

長期間で使用になりますと、ストーブの点検が必要です。

2シーズンに1回程度、シーズン終了後などに点検を実施してください。点検のご相談は、お買いあげ店または修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会(TEL 03-3499-2928)でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕のいる店までお問い合わせください。

10. 部品交換のしかた

■部品交換のときの注意

⚠注意 不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要な場合には、お買い求めの販売店又は、修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕のいる販売店にご相談ください。

部品交換はコロナ純正部品とご指定ください。

部品ご入用の際には、コロナ製品取扱販売店で必ずコロナ純正部品とご指定ください。

純正部品以外の部品をご使用になりますと、性能が十分に発揮されないばかりか、ストーブを損傷したり思わぬ事故の原因になります。

11. 保管（長期間使用しない場合）

設置したままで保管される場合やしまわれるときは、日常の点検・手入れの項を参照し、次の要領で保管してください。

■手入れのしかた

1. **⚠注意** 電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。
2. 油タンクの灯油は、すっかり出してください。中に水分やごみが残ったままにしておきますと、油タンクが腐食する原因になります。
3. 定油面器のストレーナをはずして、水分やごみを除き、定油面器の中の灯油を抜いてください。
4. ファンフィルターのごみやほこりを取り除いてください。
5. 前板をはずして、掃除機などで内部のほこりを取り除いてください。
6. 塗装部分は、湿った布で汚れを落としてから、からぶきしてください。
7. 燃焼室のサビなどがある所をペーパーで磨き「補修用の塗料」(別売品)で塗装してください。

■保管方法

1. きれいになったら、乾燥した場所に横倒しにしないでおしまいください。
2. 床暖の配管を接続したままで保管する場合は、上限水位まで補給しておいてください。
3. ストーブ内の循環水を抜いて保管する場合は、エアー抜きバルブを開いておき、エアー抜きバルブ配管内も乾燥させてください。
4. 「取扱説明書」・「工事説明書」は、大切に保管してください。

12.故障・異常の見分け方と処置方法

使用中に異常がありましたら、次表により原因を調べて処置をしてください。

原因のわからないときや、処置のむずかしいときは、お買い求めの販売店、又は、お近くのコロナお客

原因 \ 現象	E1 (途中消火)	E2 (点火しない)	E3 (対震作動)	E6 (ルームサーモリード線はずれ)	E7 (停電)	EA (燃焼用送風機異常検出)	EO (安全サーミスタ作動)	F1 (熱交サーモ作動)	F2 (湯温サーミスタリード線はずれ)	灯油がポットの底に出 てこない	炎が大きくならない
点火ヒータの断線		●									
点火ヒータと点火しんとの位置関係が悪い		●									
対震自動消火装置が作動した			●								
送油バルブが閉まっている	●	●								●	
ゴム製送油管に空気だまりがある	●	●								●	●
定油面器に水、ごみの目づまり	●	●								●	●
煙突の設置が基準通りでない											
ファンフィルターにほこりがたまった											
煙突工事不適当のため逆風現象がある	●										
燃焼リングの取付けが悪い											
煙突のつまり											
煙突の接続部にすきまがある											
油もれがある											
定油面器（電磁ポンプ）の故障	●	●									●
切替サーモスタットの故障		●									●
プリント配線板の故障	●	●								●	●
電流ヒューズが切れている											
循環ポンプの不良								●			
シスターンの循環水不足								●			
温水配管がつぶれている。バルブが閉じている								●			
アクチュエータの不良（リニアダンパーが開かない）											
ルームサーモリード線がはずれている				●							
停電があった（1秒以上-E7表示）					●						
湯温サーミスタリード線がはずれている									●		
燃焼用送風機の故障、端子がはずれている						●					
ルームサーモ取付位置が悪い											
ストーブの上面及び側面が囲われている							●				

12.故障・異常の見分け方と処置方法

様ご相談窓口にご連絡ください。

※設定室温表示にモニターサインが表示されます。

[illegible]

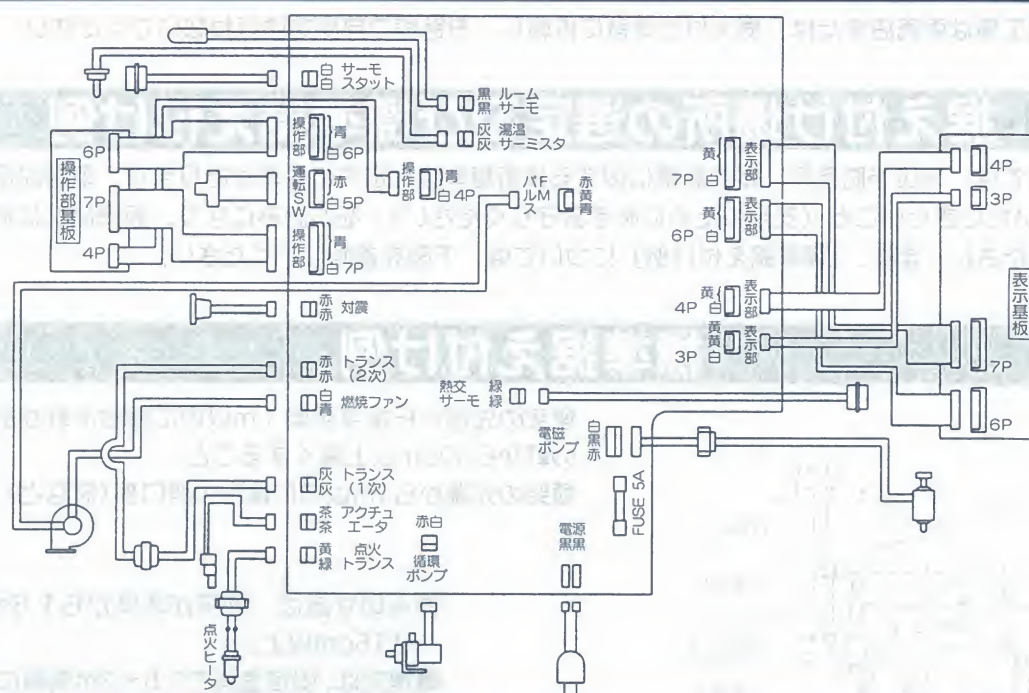
13.仕様

仕様

型 式 の 呼 び			UH-85HRF (基本型式 UH-85GR)	
種 類			ポット式・屋内用・強制通気形・自然対流形・床暖房用	
点 火 方 式			電気点火式	
使 用 燃 料			灯油 (JIS1号灯油)	
燃料消費量	床 暖 房 運 転	最 大	1.02L/h	
		最 小	0.22L/h	
	ストーブ単独運転	最 大	1.005L/h	
		最 小	0.198L/h	
発 熱 量 及び熱効率	床 暖 房 運 転	最 大	37,780kJ/h	熱効率 80.1%
		最 小	8,150kJ/h	熱効率 81.9%
	ストーブ単独運転	最 大	37,230kJ/h	熱効率 69.0%
		最 小	7,330kJ/h	熱効率 67.0%
暖 房 出 力	床 暖 房 運 転	最 大	8.41kW	循環水量 150L/h
		最 小	1.86kW	循環水量 100L/h
	ストーブ単独運転	最 大	7.14kW	
		最 小	1.36kW	
最 大 床 暖 房 出 力 (床暖房運転)			最大燃焼時 2.09kW	循環水量 150L/h
熱 効 率		最 高	81.9% (床 暖 房 運 転 目盛微少のとき)	
		最 低	67.0% (ストーブ単独運転 目盛微少のとき)	
標 準 適 室	床 暖 房 運 転	温 暖 地	木造 36.5㎡ (22畳) コンクリート 49.5㎡ (30畳)	
		寒 冷 地	木造 36.5㎡ (22畳) コンクリート 58.0㎡ (35畳)	
	ストーブ単独運転	温 暖 地	木造 29.5㎡ (18畳) コンクリート 41.5㎡ (25畳)	
		寒 冷 地	木造 31.5㎡ (19畳) コンクリート 49.5㎡ (30畳)	
本 体 水 容 量			2L (器具内蔵シスターン上限水位時)	
床暖房用熱交換器の最高使用圧力			シスターン大気開放	
外 形 寸 法			高さ600mm 幅748mm 奥行368mm (置台を含む)	
質 量			33kg	
電 源 電 圧 及 び 周 波 数			100V 50Hz/60Hz	
定格	床 暖 房 運 転		点火時 103/108W・最大燃焼時 41/47W	
消費電力	ス ト ー ブ 単 独 運 転		点火時 80/ 82W・最大燃焼時 15/16W	
床 パ ネ ル の 接 続 面 積			4.5～19.5㎡ (3畳～12畳) (最大燃焼時)	
温 水 配 管 接 続 口			外径φ8mmニップル	
煙 突 の 呼 び 径			φ106mm (3寸5分)	
煙 突 の 壁 貫 通 部 の 孔 径			φ110mm	
排 気 温 度	床 暖 房 運 転		330℃以下	
	ス ト ー ブ 単 独 運 転		450℃以下	
電 流 ヒ ュ ー ズ			5A	
安 全 装 置			対震自動消火装置・点火安全装置・停電安全装置	
そ の 他 の 装 置			再点火安全装置・循環水過昇防止装置・燃焼用送風機異常検出装置・ 過電流防止装置・不着火検出装置・安全サーミスタ	
付 属 品			置台1個・バックチューブ2.5m・ホースバンド2個・遮熱板1個・ 本体固定金具2個 (ねじ2個)・ゴム製送油管締付バンド2個	

備考)・標準適室は、社団法人・日本ガス石油機器工業会の算定基準によります。

配線図



14.アフターサービス

■保証について

- このコロナ石油ストーブには保証書がついています。
保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。
- 保証期間はお買い上げ日から1年間です。
- 次のような原因による故障及び、事故につきましては、保証の対象になりませんので注意してください。（詳しくは保証書をお読みください。）
- 変質灯油や不純灯油など、また灯油以外の燃料使用による故障や事故。
- 誤った使用方法による故障や事故。

■修理を依頼されるときについて

- 「故障・異常の見分け方と処置方法」（19・20ページ）にしたがってお調べください。直らないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。
- ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
① 品名 ② 型式の呼び ③ お買い上げ日 ④ 故障の状況（出来るだけ具体的に）
- 修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定にしたがって、販売店が修理させていただきます。
- 保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
- ご不明な点や修理に関するご相談は、お買い上げの販売店または、この取扱説明書の裏表紙に記載されている「お客様ご相談窓口」にお問い合わせください。
- 修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

■補修用性能部品について

- 当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、7年保有しています。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■故障・修理の際の連絡先

- お買い上げの販売店または、この取扱説明書の裏表紙に記載されている「お客様ご相談窓口」にご連絡ください。

15. 据え付け・移設

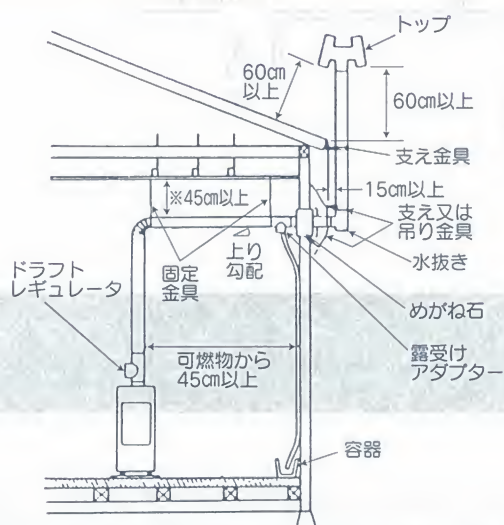
据え付け・移設工事は販売店に依頼する

据え付けや移設工事は販売店または、据え付け業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。

据え付け場所の選定及び標準据え付け例

据え付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。取扱説明書（工事編）の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」をお読みになり、販売店又は据え付け業者とよくご相談してください。また、「標準据え付け例」については、下図を参照してください。

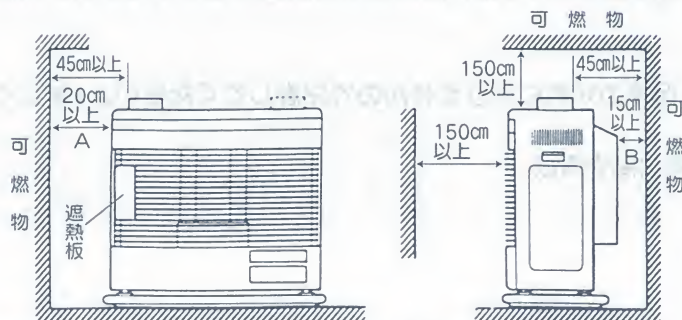
標準据え付け例



煙突の先端から水平距離1m以内に建物の軒がある場合は、その軒から60cm以上高くすること。

煙突の先端から1m以内に建物の開口部（窓など）がないこと。

- ※印寸法は、煙突が本体から1.8mを超える場合は15cm以上。
- 煙突は、固定金具で1.5～2m間隔に固定すること。
- 設置の場合は当該地区の火災予防条例にしたがってください。
- 風の強い地域では、必ず、ドラフトレギュレータを取り付けてください。
- 結露水が出る場合には、露受けアダプターを取り付け排出した結露水は、容器に受けてください。
〔結露予防のため、煙突の横引き長さはできる限り短く、2m以内にしてください。〕



（備考）

1. A・B寸法は、20cm以上、15cm以上と示していますが、煙突と可燃物との距離（45cm以上）でも規制されます。可燃物との距離が長くなるように設置してください。
2. 遮熱板を取り付けない場合は、A寸法を30cm以上離してください。

据え付け後の確認

据え付けが終わりましたら、もう一度、取扱説明書（工事編）の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」をお読みになり、取扱説明書（工事編）に記載されているとおり据え付けられているかどうかを確認してください。

試 運 転

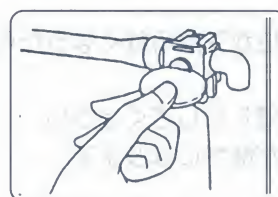
試運転は販売店又は据え付け業者とごいっしょに必ず行ってください。

■ 運転準備

- **⚠注意** 電源プラグをコンセントに刃の根元まで確実に差し込んでください。
- 油タンクに給油し、送油経路の空気抜きをしてください。
- 送油経路やストーブより油もれがないか確認してください。
- 配管途中にバルブなどがある場合には、全開にしてください。
- 安全装置をセットしてください。
〔定油面器リセットボタンのセット〕
- タイマー運転になっていませんか。

■ 循環液の給水方法

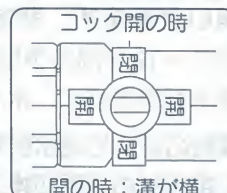
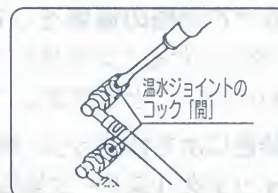
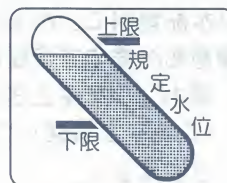
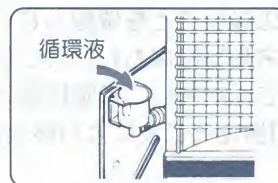
1. 給水前にエアー抜きバルブが全開になっていることを確認してください。
(工場出荷時には開いてあります。)
必ず全開にしてください。
2. ストーブ左側面の水位計で、シスターンタンクの規定水位(上限水位)まで循環液(コロナ床暖房用循環液)を入れてください。
3. 操作部の床暖切換スイッチを「ストーブ床暖房」にセットしてください。
4. 運転スイッチを押して「入」にしてすぐに「切」にしてください。
 - この操作で循環ポンプと燃焼用送風機が約8分間運転します。
 - 運転スイッチが「入」のままですと、点火することがありますので、必ず「切」にしてください。
5. 器具の左背面にある行きと戻り両方の温水ジョイントのcockを「開」にしてください。



エアー抜きバルブ
全開の時



開の時：溝が横



開の時：溝が横

15. 据え付け・移設

試 運 転

6. シスターンタンクの水位が下がり始めますので上限水位まで循環液を給水してください。

(シスターンタンクの水位が下がらなくなるまで給水を続けてください。)

- 循環液の給水が終了する前に循環ポンプが停止した場合には、また運転スイッチを押してすぐに「切」にしてください。循環ポンプが再度約8分間運転しますので循環水の給水を継続できます。

- 温水配管施工などの関係で、エアー抜きバルブではエアーが抜けきらない場合は、次の方法があります。

温水行き口のcockを閉にして温水配管接続をはずし、cockを開いて循環水を少しずつ流し、エアーを抜く(循環液がこぼれないように容器を用意してください。)



7. シスターンタンクの水位が下がらなくなったら循環液の給水は終了です。

エアー抜きバルブを「閉」にしてください。

- 循環ポンプの運転音が静かになります。



エアー抜きバルブ
閉の時



閉の時：溝が縦

8. 温水配管路に、水もれのないことを確認してください。

- 運転の途中で床暖パネル等に水もれがあった場合は、循環ポンプを停止させてください。床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に切換えることにより停止させることができます。

9. 異常のないことを確認したら完了ですので操作部の床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に切換えて循環ポンプを停止させてください。



■ 運 転

- 運転は、ストーブ床暖房運転でおこない、正常に運転することを確認してください。

ストーブ床暖房運転

1. 操作部の床暖切換スイッチを「ストーブ床暖房」にセットしてください。
2. 運転スイッチを押して「入」にしてください。

- ストーブは点火動作を開始すると同時に、電磁ポンプの空打ち音(初使用時)が数秒しますが異常ではありません。

- 【ご注意】**初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼けて煙と臭いがでます。窓をあけて部屋の換気をしてください。

- 約9～12時間の予備燃焼が終わると本燃焼に切り替わります。

3. 温水配管経路に、水もれのないことを確認してください。

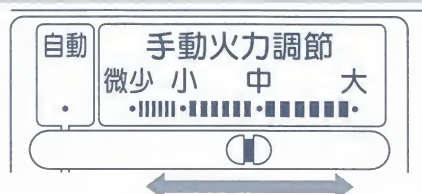
- 運転の途中で温水配管経路に水もれがあった場合

①操作部の床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に切り替えて循環ポンプを停止させてください。

②運転スイッチを押して「切」にしてストーブの運転を停止してください。

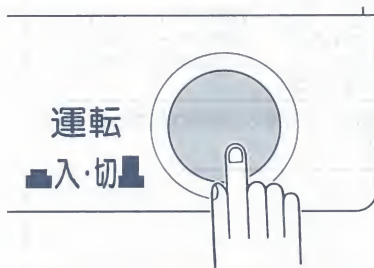
4. 異常がなければ、火力調節つまみを「微少」～「大」に設定してください。しばらくして床暖パネルが暖かくなることを確認してください。

- 炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎(赤火)がまじっても異常ではありません。



■消火の手順

ストーブ床暖房運転



- 運転スイッチを押して「切」にしてください。
運転ランプが消灯します。
燃焼室が冷却すると自動的に燃焼用送風機、循環ポンプが停止し、時刻表示以外のすべてのランプが消灯します。

- 正常運転しない場合は、19～20ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」を参照してください。
- 長期間の保管後、再び設置する場合も「試運転」の手順にしたがい、試運転を行ってください。

16. 廃棄するときの注意

- ストーブを廃棄処分するときは、定油面器の灯油を抜き取ってください。
灯油を入ったまま廃棄するとリサイクルの際に思わぬ事故になるおそれがあります。

